

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

實用新案登録第3178145号
(U3178145)

(45) 発行日 平成24年8月30日(2012. 8. 30)

(24) 登録日 平成24年8月8日 (2012.8.8)

(51) Int. Cl.

F 1

A47D 7/00 (2006.01)

A47D 7/00

$$Z$$

A47C 21/08 (2006.01)

A 4 7 C 21/08

$$\mathbf{Z}$$

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願2012-3771 (U2012-3771)
(22) 出願日 平成24年6月21日 (2012. 6. 21)

(73) 実用新案権者 501001751
伊藤 美枝子
愛知県海部郡蟹江町錦2丁目163

(74) 代理人 100086520
弁理士 清水 義久

(72) 考案者 伊藤 美枝子
愛知県海部郡蟹江町錦2丁目163

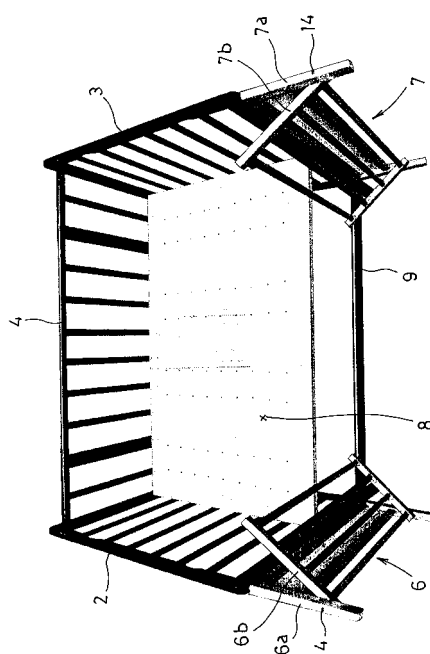
(54) 【考案の名称】 ベビーベッド

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】赤ちゃんの出し入れ時に腕や肩や腰の負担が少なくなるベビーベッドを提供する。

【解決手段】左右の側枠 2, 3 と前枠と後枠 4 が平面視長形状に組み合わされてなるベビーベッドにおいて、前枠は、中央で左前枠 6 と右前枠 7 に分割されており、左前枠 6 の左端は左側枠 2 の前端に蝶番を介して連結され、右前枠 7 の右端は右側枠 3 の前端に蝶番を介して連結されており、左前枠 6 と右前枠 7 は、それぞれ蝶番を介し前方側へ向かって観音開き状に開閉できるように構成されている。

【選択図】図3



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

左右の側枠と、前枠と、後枠が、平面視長方形状に組み合わされてなるベビーベッドにおいて、

前記前枠は、中央で左前枠と右前枠に分割されてなり、

左前枠の左端は前記左側枠の前端に蝶番を介して連結され、右前枠の右端は前記右側枠の前端に蝶番を介し連結されてなり、

該左前枠と右前枠はそれぞれ蝶番を介し前方側へ向かって観音開き状に開閉できるように構成されている

ことを特徴とするベビーベッド。

10

【請求項 2】

前記左前枠および右前枠は、それぞれ基枠と中折れ枠で構成されており、

基枠が前記蝶番を介し前記側枠に対し前後方向へ回動可能に連結され、

中折れ枠が前記基枠に対し前後方向へ回動可能に連結されている

ことを特徴とする請求項 1 に記載のベビーベッド。

【請求項 3】

前記中折れ枠の下端から下方に向かってピン部材が垂設され、

該ピン部材がスライド可能に係合されるレール部材が前記左右の側枠間に横設されている

ことを特徴とする請求項 2 に記載のベビーベッド。

20

【請求項 4】

前記前枠が閉じられた時に左右の中折れ枠を連結固定する固定部材が設けられている請求項 2 または請求項 3 に記載のベビーベッド。

【請求項 5】

前記固定部材は、左右の中折れ枠の上端側を固定する上固定部材と、左右の中折れ枠の下端側を固定する下固定部材で構成されている請求項 4 に記載のベビーベッド。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、ベビーベッドの改良に関するものである。

30

【背景技術】**【0002】**

ベビーベッドは、赤ちゃんの外側への落下等を防ぐために、底板と外周枠の上端間の高さが十分に確保される必要があり、そのようなベビーベッドにおいては、内部の赤ちゃんを外側へ出す時に腰を屈めて持ち上げなければならない、腕や肩や腰に負担がかかり、また、外周枠の上端に赤ちゃんの足をぶつけてしまったりすることがあった。

なお、赤ちゃんの出し入れを容易化するために、従来、特許文献 1 に開示されているように、前部側枠を上下スライド可能に構成したものがあり、赤ちゃんを出し入れする時に前部側枠を下方側へ下げて、腕や肩や腰の負担を軽減できるように構成したものが存在する。

40

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2001 - 231664 号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

上記特許文献 1 に開示されているような、前部側枠が上下スライド可能な構造のベビーベッドでは、前部側枠を十分に下方側へ下しないと赤ちゃんの出し入れを容易に行なうことができないものであるが、そのためには十分な上下スライド距離を確保するためにベビ

50

ーベッド全体の高さが高いものになってしまうという問題点があった。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本考案は、高さに関係なく赤ちゃんの出し入れの際の負担を軽減できるベビーベッドの提供を目的とし、この目的の少なくとも一部を達成するために以下の手段を採った。

本考案は、左右の側枠と、前枠と、後枠が、平面視長形状に組み合わされてなるベビーベッドにおいて、

前記前枠は、中央で左前枠と右前枠に分割されてなり、

左前枠の左端は前記左側枠の前端に蝶番を介して連結され、右前枠の右端は前記右側枠の前端に蝶番を介し連結されてなり、

該左前枠と右前枠はそれぞれ蝶番を介し前方側へ向かって観音開き状に開閉できるように構成されていることを要旨とする。

【考案の効果】

【0006】

本考案のベビーベッドでは、前枠を構成する左前枠と右前枠を観音開き状に開閉させることができ、観音開き状に開けることで、身を屈めなくても赤ちゃんを容易に抱っこして出し入れすることができ、枠が邪魔にならずにスムーズに赤ちゃんの出し入れができ、腕や肩や腰の負担を軽減できるものとなる。

【0007】

また、本考案のベビーベッドにおいて、前記左前枠および右前枠は、それぞれ基枠と中折れ枠で構成されており、

基枠が前記蝶番を介し前記側枠に対し前後方向へ回動可能に連結され、

中折れ枠が前記基枠に対し前後方向へ回動可能に連結されているものとするのもできる。

こうすれば、左右の前枠は、それぞれ基枠に対し中折れ枠を中折れさせて観音開き状に開閉できるため、開けた時の前側への突出寸法が少なくなり、狭い空間でも良好に前枠を開閉できるものとなる。

【0008】

また、本考案のベビーベッドにおいて、前記中折れ枠の下端から下方に向かってピン部材が垂設され、該ピン部材がスライド可能に係合されるレール部材が前記左右の側枠間に横設されているものとするのもできる。

こうすれば、観音開き状に開閉する際に、ピン部材がレール部材にガイドされてスライドし、良好に開閉することができる。また、レール部材にピン部材に係合されているため、左前枠および右前枠が上方へ持ち上がることがない。

【0009】

また、本考案のベビーベッドにおいて、前記前枠が閉じられた時に左右の中折れ枠を連結固定する固定部材が設けられているものとするれば、固定部材で強固に前枠の閉止状態を確保することができるものとなる。

【0010】

また、本考案のベビーベッドにおいて、前記固定部材は、左右の中折れ枠の上端側を固定する上固定部材と、左右の中折れ枠の下端側を固定する下固定部材で構成されているものとするのもできる。

こうすれば、上下の固定部材で、より確実に前枠を固定して、前枠の閉止状態を確保することができ、安全性が向上する。

【図面の簡単な説明】

【0011】

【図1】ベビーベッドの前枠を観音開き状に開いた状態の斜視構成図である。

【図2】ベビーベッドの前枠を閉じた状態の上方側から見た斜視構成図である。

【図3】前枠を観音開き状に開いた状態の上方側から見た斜視構成図である。

【図4】前枠をスムーズに開閉するためのレール部材に係合するピン部材の部分の拡大斜

10

20

30

40

50

視図である。

【図 5】ベビーベッドの左側板の内側から見た構成図である。

【図 6】ベビーベッドの前枠の正面構成図である。

【図 7】ベビーベッドのレール部材の拡大断面斜視図である。

【図 8】上固定部材の正面構成図である。

【図 9】前枠を観音開き状に開いた状態の平面概略構成図である。

【図 10】更に前枠を外側へ向かって開けた状態の平面概略構成図である。

【図 11】最大に前枠を開いた状態の平面概略構成図である。

【考案を実施するための形態】

【0012】

10

次に、本考案を実施するための形態を実施例を用いて説明する。

図 1 は、ベビーベッドの前枠を開いた状態の斜視構成図であり、図 2 は、前枠を閉じた状態の上方側から見た斜視構成図であり、図 3 は、前枠を開いた状態の上方側から見た斜視構成図である。

【0013】

ベビーベッド 1 は、左側枠 2 と右側枠 3 とを連結する後枠 4 と、後枠 4 と平行状に前側に設けられた前枠 5 で平面視略長形状に組み立てられている。

本例では、前枠 5 は、中央で左右側に分割された左前枠 6 と右前枠 7 で構成されており、更に左前枠 6 は、基枠 6 a と中折れ枠 6 b が回動可能に連結されたものとなっている。同様に、右前枠 7 も、基枠 7 a と中折れ枠 7 b が回動可能に連結されて構成されている。

20

【0014】

図 1 および図 3 は、左前枠 6 を構成する基枠 6 a に対し中折れ枠 6 b を内側へ中折れさせて開いた状態であり、同様に、右前枠 7 も基枠 7 a に対し中折れ枠 7 b を内側へ中折れさせて開いたものであり、このように前枠 5 は、左前枠 6 と右前枠 7 を観音開き状に前方側へ開くことができるように構成されている。

なお、ベビーベッド 1 には、底板 8 が水平に配置されており、底板 8 の下方側に平行状に柵板 10 が配置されている。

【0015】

左右の側枠 2, 3 は、同様な形状に形成されたものであり、図 5 において、左側板 2 を、内側から見た構成図で説明すると、左側枠 2 は、前端側の前端立ち木 2 a と後端側の後端立ち木 2 b が立設され、間隔をおいて平行状に複数本の立ち木 2 c, 2 c, 2 c が配置されて枠組み形成されたものであり、前端立ち木 2 a には、上下方向に間隔をおいて 3 個の高さ調整部 2 d, 2 d, 2 d が形成されており、この高さ調整部 2 d, 2 d, 2 d の何れかを選択して底板 8 の配置高さを設定することができるものである。

30

前端立ち木 2 a の前部には、蝶番 11, 11, 11 が上下方向に所定間隔で 3 個設けられており、この蝶番 11, 11, 11 を介して前記左前枠 6 が前後方向に開閉可能に取り付けられる。

【0016】

図 6 には、前枠 5 の正面構成図を示しており、前枠 5 は前述した如く、左前枠 6 と右前枠 7 で構成されており、左前枠 6 は、更に基枠 6 a と中折れ枠 6 b で構成されている。

40

基枠 6 a は、蝶番 11, 11, 11 を介して左側枠 2 の前端立ち木 2 a と連結される立ち木 63 を有し、この立ち木 63 の上端および下端に横方向に延びる上横木 61, 下横木 62 が連結され、更に立ち木 63 と平行状に立ち木 64 が立設されて構成されたものであり、立ち木 63 と立ち木 64 間にはベニア板等の覆蓋板 68 が取り付けられている。この基枠 6 a の上横木 61 および下横木 62 には、回動軸 14, 14 が設けられている。

【0017】

一方、中折れ枠 6 b は、上横木 65 と下横木 66 間に横方向へ間隔をおいて複数の立ち木 67, 67, 67 が固定されて枠組み形成されており、上横木 65 の図示左端側が基枠 6 a の上横木 61 の下側に重ね合わされて、回動軸 14 が上横木 65 に遊挿されている。また、下横木 66 は、基枠 6 a の下横木 62 の上面に重ね合わされて回動軸 14 が遊挿さ

50

れている。

従って、上下の回動軸 1 4 , 1 4 を介して、基枠 6 a に対し中折れ枠 6 b を前後方向に回動させることができるものである。

【 0 0 1 8 】

右前枠 7 においても、同様な形状に形成されており、回動軸 1 4 , 1 4 を介して基枠 7 a に対し中折れ枠 7 b が前後方向に回動可能に構成されている。また、基枠 7 a を構成する立ち木 7 3 と 7 4 間には、ベニア板等の覆蓋板 7 8 が設けられている。

このように、左前枠 6 および右前枠 7 は蝶番 1 1 , 1 1 , 1 1 を介して前後方向に回動可能であり、更に、回動軸 1 4 , 1 4 を介して中折れ枠 6 b , 7 b を基枠 6 a , 7 a に対して前後方向に回動させることができるように構成されている。

10

【 0 0 1 9 】

前記左側枠 2 と右側枠 3 の下部部位には、両者を連結するレール部材 9 が横設されている。即ち、図 6 のように、固定ネジ 2 0 , 2 0 を介してレール部材 9 は左側枠 2 の前端立ち木 2 a と右側枠 3 の前端立ち木 3 a 間に横設されている。

このレール部材 9 は、図 7 に拡大して断面を斜視図で示すような構造となっており、上面側の前後方向中央部には、横方向に延びる上面溝 9 a が下方へ向かって形成されており、上面溝 9 a の下端には、前後方向に幅広のガイド溝 9 b が横方向に延びて形成されている。

なお、上面溝 9 a の所定位置には、ガイド溝 9 b の前後幅とほぼ同等な直径の通し穴 9 c がガイド溝 9 b に向かって形成されている。

20

【 0 0 2 0 】

一方、前記左前枠 6 を構成する中折れ枠 6 b の下横木 6 6 の右端側、および、右前枠 7 を構成する中折れ枠 7 b の下横木 7 6 の左端側には、それぞれ下方へ垂下状にピン部材 1 5 , 1 5 が垂設されており、このピン部材 1 5 は、垂下状の軸部の下端に、ガイド溝 9 b に嵌まり込む直径を有する頭部が形成されたものであり、このピン部材 1 5 の頭部を通し穴 9 c からガイド溝 9 b 内に入れ込んでおけば、ピン部材 1 5 の頭部がガイド溝 9 b 内に嵌まり込んで、上方への持ち上げ力に対して左前枠 6 および右前枠 7 は上方へ移動することがなく、左前枠 6 および右前枠 7 は上下にがたつくことがなくガイド溝 9 b に沿ってピン部材 1 5 がスライド移動できるために、良好に左前枠 6 および右前枠 7 を横方向へ開けておくことができるものである。

30

即ち、左前枠 6 および右前枠 7 を開けておく際には、中折れ枠 6 b が基枠 6 a の内側へ折り重なってゆき、また、基枠 7 a の内側に中折れ枠 7 b が折り重なってゆき、スムーズに開閉できるものである。

【 0 0 2 1 】

なお、左前枠 6 と右前枠 7 を閉じた時に、閉止状態を維持するために、図 8 に正面図で示すような上固定部材 1 2 が設けられており、上固定部材 1 2 は、左前枠 6 の中折れ枠 6 b の上横木 6 5 に回動ピン 1 6 を介して回動可能に取り付けられており、一方、右前枠 7 の中折れ枠 7 b の上横木 7 5 には係合ピン 1 7 を設けておき、上固定部材 1 2 に形成されている下向き開口の係合縦溝 1 2 a を、上固定部材 1 2 を上方から下向きに回転させて、この係合ピン 1 7 に係合させることで、上固定部材 1 2 を介して左右の中折れ枠 6 b , 7 b を連結固定することができるものである。

40

さらに、この係合ピン 1 7 には、上固定部材 1 2 を後方側へ押さえ付ける締付部材を設けておくこともできる。

【 0 0 2 2 】

また、左右の中折れ枠 6 b , 7 b の下部部位を連結固定するために、図 1 のように、底板 8 の前面に締め付けることのできる下固定部材 1 3 が設けられており、下固定部材 1 3 は、ネジ軸部の前端に大径の頭部が形成されたものであり、左前枠 6 および右前枠 7 の閉止状態において、この下固定部材 1 3 を、中折れ枠 6 b の右端の立ち木 6 7 と中折れ枠 7 b の左端の立ち木 7 7 の前面側を跨ぐようにして、前方側から頭部を当て、ネジ軸部を底板 8 の前面に締め付けることで、中折れ枠 6 b , 7 b は底板 8 の前面に押し付けられて固

50

定される。

このように上固定部材 1 2 と下固定部材 1 3 により強固な閉止状態を確保して、安全性を高めることができるものである。

【 0 0 2 3 】

本例のベビーベッド 1 では、底板 8 の高さ位置が低く、ベビーベッド 1 の上端面の高さ位置が高い場合でも、良好に左右の前枠 6 , 7 を観音開き状に開けて、容易に底板 8 上に赤ちゃんの出し入れをすることができ、腕や肩や腰の負担を軽減できるものとなる。

【 0 0 2 4 】

なお、図 9 では、左右の前枠 6 , 7 を観音開き状に開けて、左前枠 6 と右前枠 7 間の開口部が 6 4 6 mm の開口幅となるように開けた状態を示すものである。

10

更に図 1 0 では、開口部の開口幅が 7 8 8 mm となるように開けたものである。

更に図 1 1 では、左右の基枠 6 a , 7 a を左右の側枠 2 , 3 よりも外側へ開けて、開口部の開口幅を 8 3 7 . 6 mm としたものである。

即ち、左右の側枠 2 , 3 間の距離は 1 , 1 9 8 mm であるが、それに近い非常にワイドな開口幅を確保することができ、赤ちゃんを抱き寄せてから立ち上がる等することが容易にでき、肩や腰への負担が極めて少ないものとなる。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 5 】

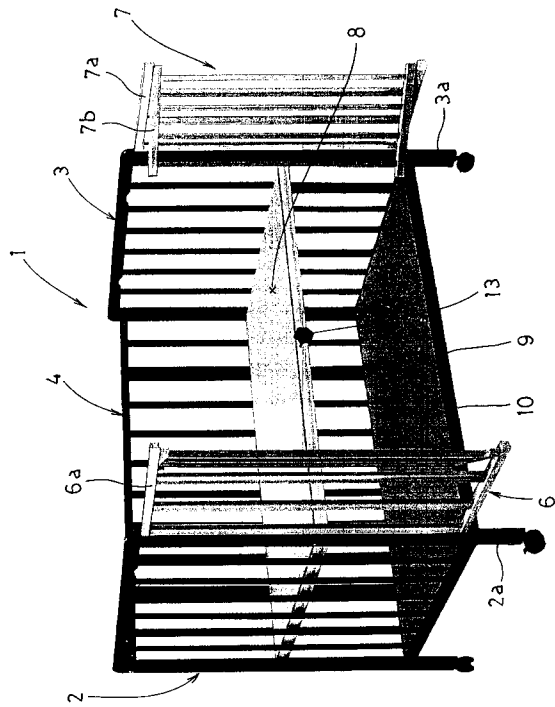
- 1 ベビーベッド
- 2 左側枠
- 2 a , 3 a 前端立ち木
- 2 d 高さ調整部
- 3 右側枠
- 5 前枠
- 6 左前枠
- 6 a 基枠
- 6 b 中折れ枠
- 7 右前枠
- 7 a 基枠
- 7 b 中折れ枠
- 8 底板
- 9 レール部材
- 9 a 上面溝
- 9 b ガイド溝
- 9 c 通し穴
- 1 1 蝶番
- 1 2 上固定部材
- 1 2 a 係合縦溝
- 1 3 下固定部材
- 1 4 回動軸
- 1 5 ピン部材
- 1 6 回動ピン
- 1 7 係合ピン
- 6 1 , 6 5 , 7 1 , 7 5 上横木
- 6 2 , 6 6 , 7 2 , 7 6 下横木
- 6 3 , 6 4 , 6 7 , 7 3 , 7 4 立ち木
- 6 8 , 7 8 覆蓋板

20

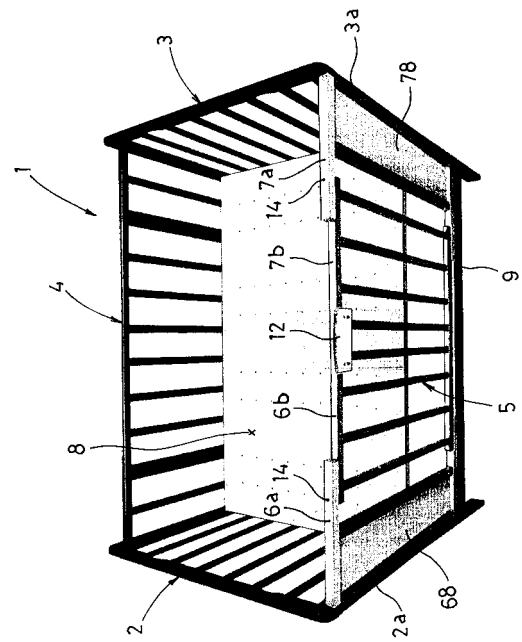
30

40

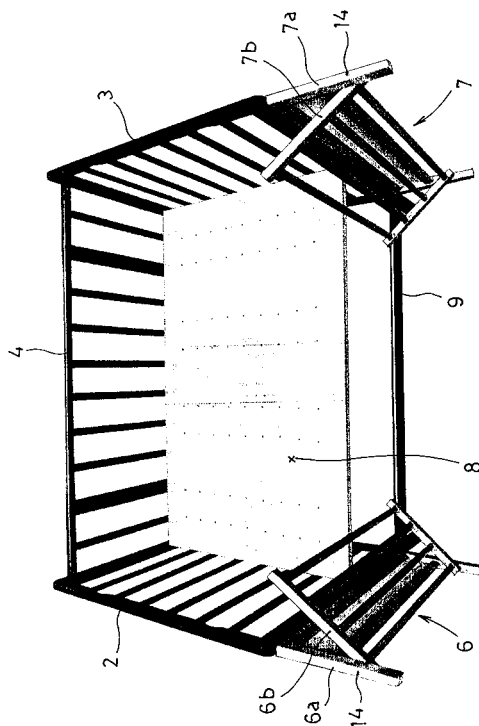
【図 1】



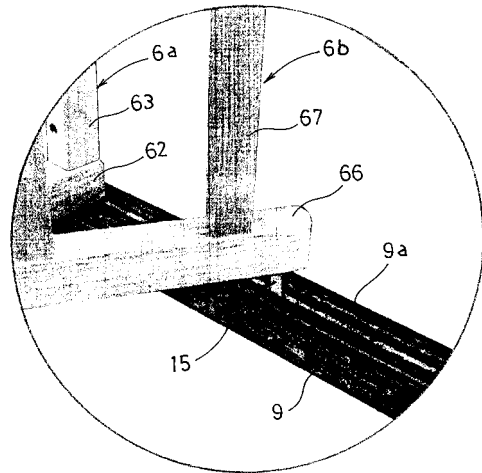
【図 2】



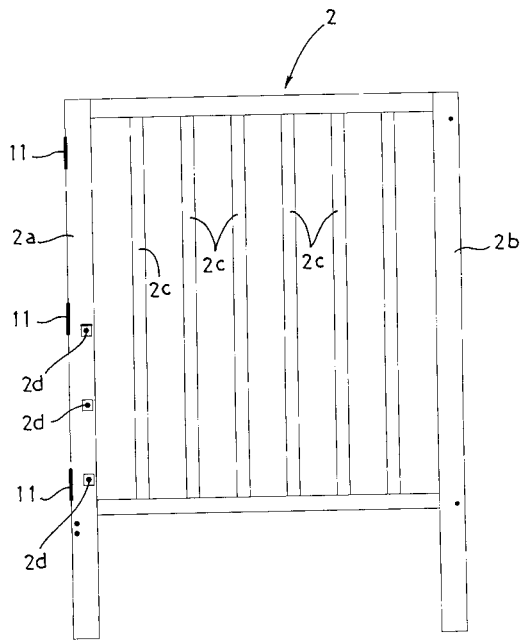
【図 3】



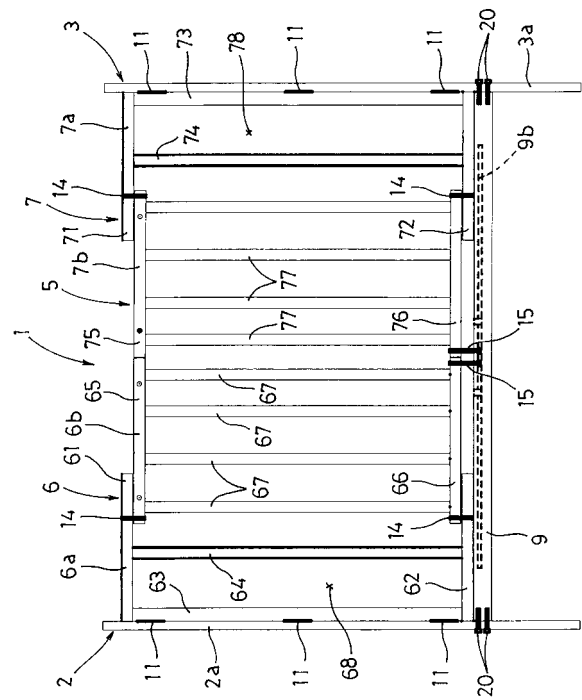
【図 4】



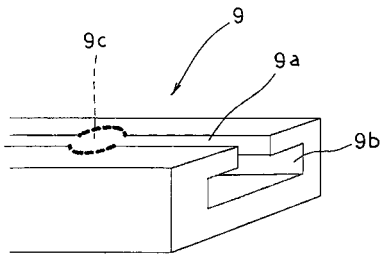
【図 5】



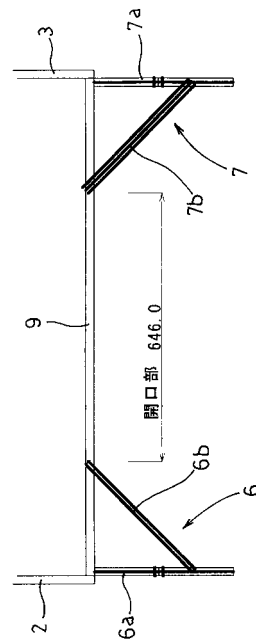
【図 6】



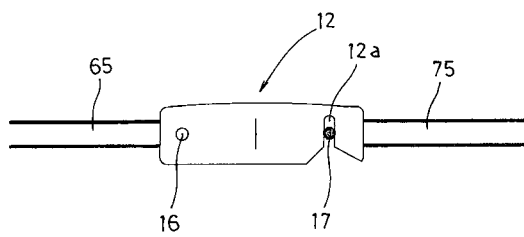
【図 7】



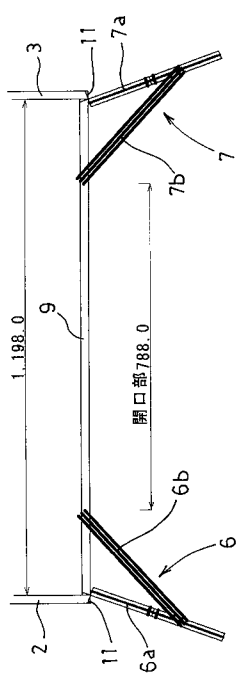
【図 9】



【図 8】



【図 1 0】



【図 1 1】

